



【現在地】 ホーム > 電子県庁・県政運営・県勢 > 県土・まちづくり > 河川・ダム・発電 > 平作川概要:平作川について

## 平作川概要:平作川について

掲載日:2011年3月1日

### 平作川の概要

二級河川平作川は、神奈川県三浦半島の中央に位置する大楠山に源を発し、半島を東南に流れて横須賀市久里浜で東京湾に注ぐ、流路延長7km、流域面積26km<sup>2</sup>の中小河川です。

戦前において一応の整備はなされていましたが、昭和30年代後半からの経済高度成長に伴って、流域の土地利用状況が都市化へと発展し、流域における従来の保水能力が低下しつつありました。このために、平作川への流出量の増大に対応するべく、昭和40年代から本格的な改修に着手していました。

このような状況の中で、昭和49年7月の集中豪雨により全川にわたって氾濫したのに続き、昭和56年10月の台風24号でも中流部沿川に激甚な災害を及ぼし、この2度の水害で沿川住宅・工場など約7,000戸が床上・床下浸水するという被害に遭い、全国でもまれな2度にわたる激甚災害対策特別緊急事業(\*)の採択を受けました。

昭和51年度から継続10年間で8,342百万円の事業費を投入し4,890m区間の改修を促進し、昭和60年度で完了しました。

※激甚災害対策特別緊急事業とは？

洪水や高潮等により大きな被害が発生した地域において、再度災害防止を図るため、概ね5カ年で、様々な河川改修を緊急に行う事業です。

#### ●改修計画の概要

改修規模は、年超過確率1/50(60分降雨強度82.1mm)の基本設計をもとにして、1月30日(60分強度74.1mm)の暫定計画を策定し、河口での計画高水流量を310m<sup>3</sup>/sとしました。

また、沿川には住宅や国道等があって引堤が困難なため、河床の切下げと護岸法面を立てることで河積の拡大をはかることとしました。

#### ●被災状況

水害発生年月日	異常気象名	総雨量(mm)	時間雨量(mm/hr)	浸水面積(ha)	浸水家屋棟数
昭和49年7月8日	梅雨前線豪雨	250.5	68.2	240	4,770
昭和56年10月22日	台風24号	280.0	64.0	64	2,105

#### ●改修計画諸元

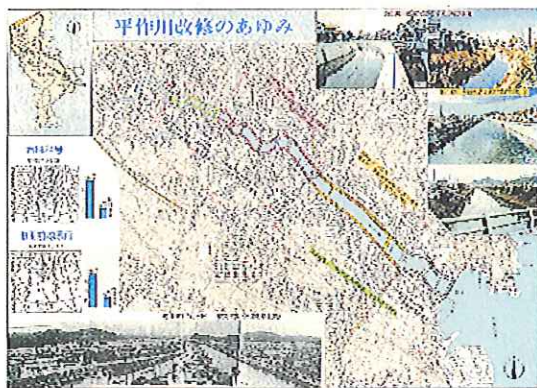
基本高水流量(m <sup>3</sup> /s)	流域面積(km <sup>2</sup> )	60分降雨強度(mm)	流出率	比流量(m <sup>3</sup> /s/km <sup>2</sup> )
310	26.08	74.1	0.8	11月9日

#### ●改修事業概要

	第1期激特	第2期激特	計
位置	横須賀市久比里から池田町	横須賀市森崎から衣笠栄町	—
事業期間	昭和51年度から昭和	昭和56年度から昭和	—

		55年度	60年度	
事業費		4,000	4,342	8,342
本工事費		2,480	1,810	4,290
附帯工事費		1,450	1,990	3,440
用地補償費		70	542	612
事業内容	延長	2,240m	2,400m	4,890m
	掘削土量	11,000m <sup>3</sup>	100,000m <sup>3</sup>	111,000m <sup>3</sup>
	護岸工(ブロック積)	25,500m <sup>2</sup>	6,000m <sup>2</sup>	31,500m <sup>2</sup>
	橋架替工	2橋	7橋	9橋
	用地買収	380m <sup>2</sup>	450m <sup>2</sup>	830m <sup>2</sup>

●平作川 河川改修のあゆみ(地図)



●近年の豪雨被害

近年では「ゲリラ豪雨」などといわれ、時間雨量が100mmにも達する集中豪雨がたびたび観測されるようになってきています。

年月日	災害名	主な被災地	死者・行方不明者数
平成16.4.18から21	大雨、強風	全国	5人
16.6.18から25	台風第6号、前線	全国	7人
16.7.12から20	新潟・福島豪雨	新潟県、福島県	16人
16.7.17から21	福井豪雨	東北、北陸、岐阜県	5人
16.8.16から20	台風第15号	全国	12人
16.8.26から9月2日	台風第16号	全国	17人
16.9.4から8	台風第18号	全国	47人
16.9月2日4から30	台風第21号	全国(北海道を除く)	27人
16.10.7から10	台風第22号	全国(北海道を除く)	9人
16.10.17から21	台風第23号	全国(北海道を除く)	98人
16.12.4から6	大雨、強風	全国(沖縄を除く)	6人
17.6.27から7月4日	大雨、前線	全国(北海道、沖縄を除く)	5人
17.7.8から12	大雨、前線	全国(北海道、沖縄を除く)	6人

17.9.4から8	台風第14号、前線	全国	29人
17.9.4から8	台風第14号、前線	全国	29人

※国土交通省のホームページ

(図表I-1-2-8 平成16、17年の日本の主な自然災害の状況)より引用

## 平作川の歴史

### 平作川の由来

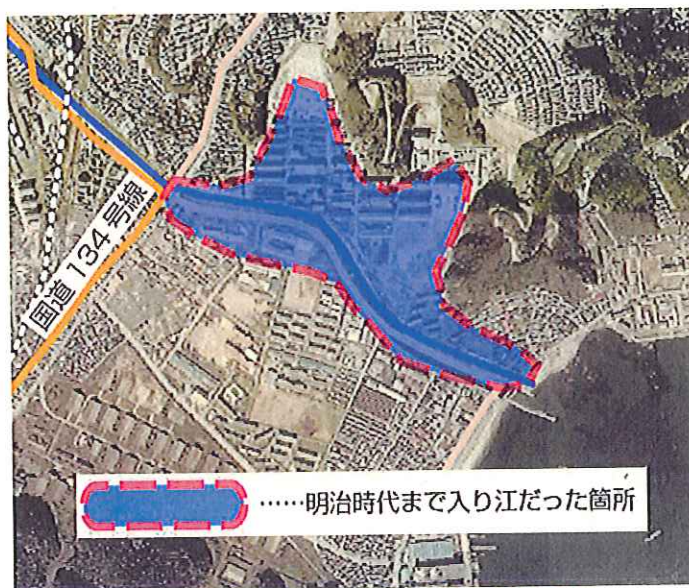
水源は上平作村より出て平作川と唱ふ、小矢部村を流れて角田川となり、森崎村にては船着川と稱(ショウ)す、内川新田に至り別れて三派となり佐原川、大川、吉井川等の名あり、末は又合して一條となり海に入る。

(新相模國風土記)

平作とは中世には平佐久又は平佐古の記録があり鎌倉期に平佐古為重の居住地であったと伝えられていますが、「平」は開けるの意で、「サコ」は入り込んだ地形を表すことであり、全体でいくつもの谷戸の合流した開けた土地と考えられています。

### から明治時代までの平作川

平作川の河口付近(現在の河口から夫婦橋付近までの約1km区間)は、久里浜港の入り江として漁業が栄え、現在の夫婦橋より下流は川ではなく入り江でした。



※背景写真は「国土画像情報(オルソ化空中写真)国土交通省」より引用

### 大正時代から

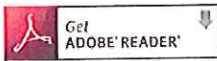
大正12年の関東大震災によって、この付近一帯の地盤が隆起して入り江としての機能がなくなり、低いところが自然の水路となりました。そのため漁船等の航行に支障が出たため、漁業組合施工による水路の施工が行われました。

昭和5から6年になって地盤隆起によって湿地帯となったこの付近一帯の埋め立て事業と、現在の平作川となる水路整備事業が県によって実施されました。(準用河川の指定 昭和6年6月1日) 現在の夫婦橋から開国橋の平作川はこの時の改修で作られた河川です

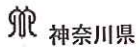
○ [このページの先頭へもどる](#)



※背景写真は「国土画像情報(オルソ化空中写真)国土交通省」より引用



Pdf形式のファイルをご覧いただく場合には、Adobe社が提供するAdobe Readerが必要です。Adobe Readerをお持ちでない方は、バナーのリンク先からダウンロードしてください。(無料)



このページの所管所属は [横須賀土木事務所](#) です。

